伝統産業の風景

宇治茶の生業景観

⬆茶摘みの風景

宇治の茶栽培開始は鎌倉時代のことです。室町時代には幕府の庇護で宇治茶の名声は高まり、江戸時代には茶師の活躍により、将軍家や大名家御用達の高級茶として日本一の銘柄を確立しました。この伝統産業の景観は、茶葉の生産から加工、そして販売への一連の景観として、宇治に息づいています。

まち中や周囲に点在する茶園の大半は、５月の茶摘み前に一斉に覆いがかけられます。覆下栽培と呼ばれる独特の方法で、旨味のある高級な碾茶（抹茶）や玉露用の茶葉が生産されています。近年は黒色遮光シートの覆いが主流ですが、本来はヨシズにワラを用いていました（本簀）。この覆下茶園での茶摘みは、古くから宇治を代表する風物詩でした。摘まれた茶葉は、直ちに製茶場に運ばれ、茶に加工されます。まち中の茶農家では家屋の裏に製茶場を設けており、碾茶用の長大な耐火レンガ製乾燥炉が、今も現役で動いています。市街地の通り沿いには、江戸時代以来の茶師の長屋門、明治時代の茶商の屋敷や工場、茶農家の町家などが点在し、お茶の町宇治の風情が伝えられています。

⬆碾茶を乾燥させるための碾茶用レンガ製乾燥炉

国選定 重要文化的景観

宇治の文化的景観 マップ

かざらない 素顔の宇治とのであい

宇治市

骨格となる風景

宇治川の自然景観

⬆ 宇治川の景観

宇治橋から上流の眺めは、宇治川を代表する景観です。険しい山間から流れ出す宇治川の急流が、滔滔と音を立てて流れくだる川面に自然の険しさを残しながらも、四季折々に変化を見せる落ち着いた川岸風景には、まさに山紫水明の自然美と風情が凝縮され、古来より多くの人たちに愛されてきました。ことに冬の朝、川面に立つ朝霧は、代表的な宇治の風情として勅撰和歌集にも詠われました。宇治は、この宇治川なくして存在しない、といっても過言ではありません。この景観が評価され、平成 30 年 10 月 15 日名勝「宇治山」に指定されました。

宇治川をよりいっそう魅力的にしているのは、このような自然美と共に、この川を舞台に語り継がれてきた多くの歴史・古典文学があります。古くは仁徳天皇即位のため自ら命を絶った悲劇の皇子菟道稚郎子の伝承、『源氏物語』宇治十帖に描かれる平安貴族たちの恋愛、源平の戦いにおける武将たちの奮戦、豊臣秀吉による長大な太閤堤築造や、宇治橋三の間での名水汲み上げ故事など、遠い過去への憧憬と記憶とが宇治川の自然美と溶けあって、個性豊かな姿を私たちに見せています。

⬆宇治の朝霧

積み重なる風景

平安時代を引き継ぐ歴史景観

⬆ 宇治橋通りの風景

宇治川の西岸、古くから街並みが広がる宇治市街地の道は、東西南北に碁盤目状に走る本町通り・県通り・伍町通りなどの道路を基本としながら、そこを斜めに宇治橋通りが貫き、これらが作り出す三角形状の街区が市街地の基本形となっています。この珍しい三角形の街区自体が、じつは宇治の歩んできた歴史の証人となっています。

藤原頼通が父道長から相続した別荘を寺に改造し、平等院としたのは 1052 年のことでした。これ以降、現在の市街地部には藤原氏によって都にならったまちづくりが行われ、多くの邸宅が建てられました。都市としての宇治の始まりです。この時の道が碁盤目状の道路です。300 年後の南北朝期に、宇治は楠正成の兵火に包まれました。この復興に併せて新たに造られたのが宇治橋通りでした。この道を新町通りと俗称するのはこのためです。この重なりで街は三角形になり、そこに町家が建てられました。まちづくりが行われた宇治川西岸と対照的に、東岸地区には宇治神社、宇治上神社などの神社が整備され、その後も興聖寺など寺社造営が続き、静寂な空間が維持されました。現在、宇治川を挟んで見る西岸の賑わいと東岸の静かな趣の中にも、平安時代の伝統が継承されています。

⬆12世紀頃の平等院と貴族の別荘の復元想像図

❀ 宇治の祭 ❀

宇治の町で行われている祭を紹介します。

●大幣神事（たいへいしんじ）　宇治市無形民俗文化財

６月８日の午前中に宇治のまち中で行われる、中世にさかのぼる厄祓い神事。三つの傘を付けた大幣に厄を集めるため、県神社から県通り、宇治橋通り、本町通りの順で神事を行いながら、大幣と昔装束の行列が町を巡ります。大幣は神社に帰ると直ちに壊され、宇治川に投げ捨てられます。大幣を見守る騎馬神人や風流傘など行列の様子に古式ゆかしい中世の面影をよくとどめています。

⬆町中の厄を集めて巡る

⬆県通りを全力疾走

⬆県通りを駆ける騎馬神人

⬆宇治橋から大幣の厄を払う

●神幸祭（しんこうさい）・還幸祭（かんこうさい）

平安時代の離宮祭に起源をもつ伝統的な祭。宇治神社では５月８日に宇治神社から神輿が御旅所（おたびしょ）に移る神幸祭、６月８日午後に神輿が街中を巡幸しながら宇治神社に帰る還幸祭が行われます。宇治上神社では５月１日が神幸祭、５月５日が還幸祭となっていました。現在は、神輿巡行は各日の翌日曜日に行われています。

●あがた祭

６月５日の深夜に行われる祭り。新茶の収穫祭として江戸時代に始まったとされます。丸く御幣（ごへい）を飾った梵天（ぼんてん）と呼ばれる山車がまちの辻々で回され巡幸します。通りは７００軒近い露店で賑わいます。

発行：宇治市

お問合せ先：
宇治市都市整備部歴史まちづくり推進課
〒611-8501　京都府宇治市宇治琵琶 33 番地
電話番号：0774-22-3141（代表）

令和３年５月改定

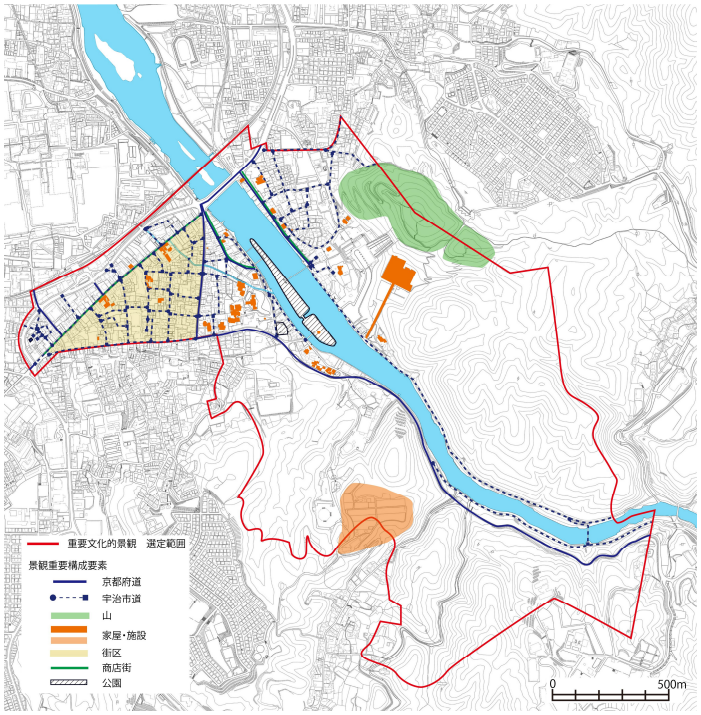
国選定重要文化的景観

「宇治の文化的景観」

「文化的景観」とは人々の生活や生業と自然風土とが時の流れの中で調和し、かたち作られた風景で、私たちの生活や生業を理解する上で欠くことのできない景観地のことです。平成 16 年の文化財保護法改正で、新たな文化財の種類として創設されました。

「宇治の文化的景観」は、山紫水明の宇治川景観を骨格に、平安時代以来の歴史や文化が豊かに積み重なり、宇治茶の伝統的生業が町中に息づく景観地として、宇治地区の 228.5ha が平成 21 年 2 月に重要文化的景観として国により選定されました。都市の景観としては第１号です。

「宇治の文化的景観」では、この土地に継承されてきた景観をかたち作る重要なものとして、宇治川、仏徳山、朝日山などの自然、耕作地として宇治地区と白川地区の茶畑、都市の基盤となる道路のうち江戸時代以前に存在した京都府道と宇治市道の計 53 路線、歴史的な橋梁である宇治橋、近代化の中で整備された大規模な公園、都市の賑わいの場所としての商店街、歴史や文化を伝える平等院をはじめとした江戸時代以前の 13 社寺、文化的景観の価値や個性を伝える特色ある家屋 14 件、土地の真実性を担保する遺跡などから、合計 95 件の景観重要構成要素を選んでいます。これらを手がかりとして、このマップを片手に、日ごろの風景の中に個性があふれる宇治の文化的景観を発見してみませんか。



⬆「宇治の文化的景観」選定区域と景観重要構成要素

文化的景観の見どころ散策

※**太字**は景観重要構成要素

宇治川の景観を眺めよう

⬆宇治橋からの眺め

宇治の代表的な景観は、なんといっても宇治橋から眺めた宇治川の景観。急流宇治川の流れと、仏徳山・朝日山などの豊かな山並みは千年このかた変わらない。この景観が評価され、平成 30 年 10 月 15 日名勝「宇治山」に指定された。平等院や宇治神社などの社寺が川岸に臨み緑豊かなことも特色。宇治橋は飛鳥時代に架けられた日本最古の古代橋で交通の要衝宇治の象徴。現在の橋は平成 8 年に完成。上流側に張り出した「三の間」では豊臣秀吉が茶の湯の水を汲んだ。宇治橋の守り神である橋姫神社は古くは宇治橋西詰にあった。

まち中を歩いてみよう

⬆奥が上林家住宅、手前が山本家住宅

宇治の文化的景観は、まち中に見どころ満載。一番の繁華街は宇治橋通り。町の西端、一の坂から宇治橋までの 900m に江戸時代から現代までの約 80 軒の店舗が並び、宇治の歴史を伝える。江戸時代、宇治橋寄りには茶師の屋敷が建ち並んでいた。ここにある上林家住宅には、武家風の茶師の長屋門が残されている。隣の山本家住宅は、伝統的な茶農家建築。長い軒の出は宇治の町家の特徴。奥には碾茶用レンガ製乾燥炉がある。向側の三軒は元々一棟の長屋門で躯体に当時の面影を残す。旧丸五百貨店建物は昭和 7 年の鉄筋コンクリート造の洋風建築で、通りの近代化を象徴する。通り中ほどの中村藤吉本店は、明治期を代表する茶商屋敷や茶工場建物をよく残す。この他にも年々減少してきているものの、古い建築物が点在する。県通りは平安期の大和大路を継承する道路で、北端では県神社の鳥居がまたぐ。南端の県神社辺りには茶問屋が集まり、一昔前のお茶の町の雰囲気を伝える。

⬆旧丸五百貨店建物

本町通りは古代以来の最も古い道。西端辺りには、まち中に唯一残る茶園と宇治で最古の元茶工場の寺川家土蔵がある。県神社東側の芳春園岩井勘造商店も代表的な茶問屋建築。これら主要な通りから一歩奥、中に入ると、平安時代以来の碁盤目状の街区に町家が連なる静かな空間が広がる。かつて藤原氏の邸宅が軒を連ねた場所だ。

伍町通りも平安時代の大路を継承する道で、西端で宇治橋通りに分断され屈曲する。清水家住宅には、宇治代官所跡から移築した長屋門や茶農家の屋敷構えが残る。福文茶店製茶場にも現役の碾茶用レンガ製乾燥炉がある。所々の町家の軒に「上空注意」の看板。長い軒の副産物だ。

川沿いを歩いてみよう

⬆宇治神社

宇治川沿いは昔からの観光中心地。東岸には放生院、正覚院、宇治神社、宇治上神社、恵心院、興聖寺、東禅院など平安から江戸時代までの社寺が連なり静かで厳かな雰囲気が漂う。宇治橋東詰の通円茶屋は江戸時代の茶店。川沿いの朝霧通りは平安時代に競馬が行われた古道。途中の京都府茶業会議所は昭和 3 年の建築だ。朝霧橋を西に渡ると京都府立宇治公園。明治末年の浮島十三重塔の再建を契機に橘島が造られ公園化された。この辺りでの舟遊びは観光の目玉の一つ。喜撰橋を西岸に渡ると、茶房あじろと花やしき浮舟園の木造建物群。明治より宇治川遊覧を支えた老舗旅館。川沿いに鳳凰堂を見ながら北に歩くと、平等院表参道。その中に御室御所仁和寺に納めていた銘菓「喜撰糖」で知られた老舗和菓子店御菓子司能登椽稲房安兼がある。通りの川沿いにはかつて旅館が建ち並んでいた。旧菊屋万碧楼建物はその一つで、現在は中村藤吉平等院店である。宇治茶の小売店が並び観光客が行き交う様子は、戦後の観光化の中で新しく育った景観だ。

宇治の文化的景観散策マップ